令和5年度　学校自己評価書（様式）

鈴鹿市立河曲小学校

NO. 1

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	○校内研修の充実を図る。 ・3年生以上の算数科の授業（週5時間）で少人数指導（◎習熟度別学習，TT）を実施し，学力の定着と向上を図る。 ・全国学力・学習状況調査や「みえスタディ・チェック」の結果を踏まえ，課題を改善するために効果的な授業実践を行う。グラフやデータの読み取りの授業改善を全学年で行う。 ・教育委員会から指導主事を要請する全校及び学年別研修会(年3回以上)。 ○基礎学力向上への取組 ・河曲っ子タイム（朝学習）を1，2年生は毎朝，3年生以上は週2回（月・水）実施し，学力の定着を図る。 ・スペシャルサマーを実施し，1学期の算数科の基礎学力定着を図る。 ・活字に親しみ，読解力の向上を図るために，「子ども新聞」を活用する。 （4年以上の各学級へ配紙） ・読書貯金を全学年で行い，貸出冊数の1人あたりの平均を増やす。 ○家庭学習の定着に向けた取組 ・目標をもって意欲的に宿題に取り組めるように，家庭学習強化週間を年3回設ける。「家庭学習の手引き」をもとにした家庭と連携した取組（「家庭学習カレンダー」の活用）。 （成果と課題） ○少人数指導により，わからないで困っている子どもを見過ごすことが少なくなった。 ○全国学力・状況調査等の分析を行うことで，2学期以降の授業改善につながっている。 ○指導主事を要請する研究授業を年5回行った。（研究授業は年7回） ○スペシャルサマーは2日間で192人の児童が参加した。（3年生以上） ○読書量が，一人当たりの年間貸出冊数が，37冊になった。（昨年度は，33冊） ○家庭学習強化週間は年3回実施した。 ▲河曲っ子タイムに行っている読む書くワークの負担が大きい。	・学力向上の取組は一定の成果があったと思う。特に4，5年対象のみえスタディ・チェックの結果はすばらしい。5年生は3学期に実施する2回目がどうなるのか、1年間の成果判断となる。結果分析を行い、次年度に活かしてほしい。 ・少人数指導の実施は学力向上につながることなので、引き続き実施していってほしい。 ・河曲っ子タイム（読解力）を中心にして、物事の理解を高めていくことはよいことである。もし先生方の負担があるのであれば、保護者に丸付けをやれせてもよい。子どもとの触れ合いも大事にできる。 ・学校の先生に勉強で分からないところを聞くのは、気を使い（忙しそうなので）聞きづらいと言っている。なので、少人数指導の時間を増やしていただけたら、向上にもつながると思う。 ・長期休みの宿題について、市内の他校より本校の宿題は多いと感じるが、ドリルなど家庭学習は必要だと思うので、宿題は現状のまま、多めでお願いしたい。 ・アンケートでも読書する人数が少ないと思ったが、読書は子どもにとって大事な時間だと思うので、引き続き行ってほしい。 ・読書貯金のおかげで子どもが本を読む機会が増えたと思うので、非常に良かった。 理科の実験等も積極的に行っていただけるとよい。 ・子どもの学力に応じたきめ細やかな指導を望みます。 ・スペシャルサマーが2日間では少なく思う。1週間ぐらい、学年に応じてやっていただきたい。 ・全学年に言えると思うがやはり「読む書くワーク」特に、読む活動を増やすことが学力アップになると思う。 ・やはり今の子どもは、活字を読むことが嫌いなようである。大人になるまで漢字の習得や思考力の向上に多大な影響をもたらす。ある程度の頻度で課題を出すべきである。 ・何かのテーマに基づきみんなで討論する場を設けるのも、思考力の活性化に良い。	・少人数指導の継続。 ・スペシャルサマーの指導内容を絞って，基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力の向上のため，計算ボランティアを募集してもよい。 ・文章を読む書くことが苦手な児童はやはり多い。ICT機器の活用に加え，作文を書くといった指導を大切にしていく。 ・来年度は国語科を研修教科とし，「話す聞く」力の向上を図っていく。
ＩＣＴの活用	・ICT機器を活用し，視覚に訴えたり，伝え合い学び合う場を設定したりして，分かりやすい授業づくりに努める。 （成果と課題） ○目的を意識してICT機器を活用した授業を行った。児童も機器の活用に慣れて自分の考えを表現できるようになってきた。	・人とICT機器の関係でなく、人と人の関係を重視し、ICT機器はそれをサポートする存在であってほしい。 ・今の子どもたちは機器に強くて、PCのタイピングも速くびっくりした。学校での取組が生かされていつと思った。 ・長期休みには子どもたちが進んで勉強してくれるのでよいが、荷の重さや人との会話が少なくなってしまうので、少し内容は検討してほしい。 ・chromebookの持ち帰りが子どもの負担となっている。持ち運びの破損の心配もある。家で課題にすぐ取り組めない時もあり、改善を要する。	・クロームブックを使った宿題の出し方を学年で考えていく。 ・クロームブックの持ち帰りについては学校裁量ではないので，運用しずらい部分がある。
長欠減少	○不適応，不登校（傾向）児童への支援 ・不登校対策コーディネーター，特別支援教育コーディネーターを中心として確立された校内体制を維持推進する。 ・SLS（週3日），SC，（年間10回来校），SSW（必要に応じて）や関係機関と情報を共有し連携した支援の実施。 ・長期欠席児童の情報の共有（毎日：学級→養護（保健室）→校長，教頭→関係クラス） ・特別支援教育推進委員会を月1回開催し，困り感のある児童や保護者の状況を共有するとともに，改善に向けた対応策を検討する。 ・教職員研修（事例検討会）を実施し，教職員の関わり方についての知見を高める。 （成果と課題） ○年8回の特別支援教育推進委員会を実施し、困り感のある児童や保護者の情報共有し、支援の方法について話し合った。 ○職員会議や職員打ち合わせなどで、必要な情報共有を行い、家庭環境等を考慮しながら対策を話し合うことができた。 ○特別支援教育推進委員会の話し合い内容を職員に配布し、出席していない職員がいつでも確認できるように共有化を図った。 ○SLS(週3回),SC(年間11回),SSW(月1回)を積極的に活用し、不登校児童や困り感のある児童、保護者の支援を行った。SLS,SC,SSW,CO,管理職、担任の共通のノートを作り情報共有を行った。 ○「ほっとルーム」通級児童の様子を記録し、管理職、CO、担任が毎日チェックし確認した。 ○登校に不安のある児童に対しては「ほっとルーム」を紹介し、不安の軽減につなげた。	・不適応、不登校（傾向）児童への支援について、様々な取組をして成果になっていることは理解できるが、数値目標を設定することも重要ではないか。 ・不適応、不登校（傾向）児童が何人いるのか、情報としてもらっていない。学年や性別等の情報もない。 ・不登校支援に関して、各地区の民生委員がいるのに何も力になることができないでいる。学校と民生委員との連携を強くしていくべきである。（他校では主任児童委員と連携しているところもある） ・「ほっとルーム」をつくっていただいたことは、すごくありがたい場だと思う。集団生活になじめない子どもが増えている。そんな中、少しでも学校に来て居場所があれば、不登校の子も減ってくるだろう。そうなればと願っている。 ・不登校はとにかく対応が難しい。 一人一人とコミュニケーションをとり、楽しく学校に行ける努力をする。運動会、遠足等に不登校の子どもを参加させる手立てを考えたい。 ・ニュースにも取り上げられたが桜島小の成功例のように「ほっとルーム」は大変意義のある施設だと思う。 ・長欠は登校が嫌なのではなく、夜遅くまでゲームをしたりしていることで、朝起きれないことが要因だとよく聞く。早寝早起きの指導を徹底していただきたい。	・来年度もSLS,SC,SSWや関係機関と情報を共有し、安心して登校できる環境づくりを図っていく。 ・特別支援教委育推進委員会を継続実施し、情報共有を行う。 ・ほっとルームの運用を継続して行い、個別支援が必要な児童を支えていく。 ・登校に不安を抱える児童の様子を記録し、担任、管理職、COを中心に情報共有を図り、支援の方法を検討していく。

地域連携	1 学校運営協議会での協議に基づく学校運営の改善・充実 ・年6回開催し，学校，地域の実情に応じた協議の充実を図る。 ・中学校区での取組を推進する（挨拶運動，家庭学習週間）。 2 保護者，地域への積極的な情報発信 ・運営協議会での協議内容を学校HP，学校だより等で定期的に発信する。 ・学校公開デー（ラジオ体操，フリー参観，運動会等）を設定し，地域とともにある学校づくりを推進する。 3 学校教育活動への地域人材の積極的な活用 ・地域コーディネーターと連携し，円滑な支援を行う（ボランティア活動のべ1000人）。 ・感染防止対策をとった上で，学校支援ボランティアやゲストティーチャーの活用を図る・ ・地域づくり協議会と連携した学校環境美化活動の実施（年間4回） （成果と課題） 〇学校運営協議会を6回開催し、新たに「河曲小学校の新しい体育館」ポスターコンクールの取り組みや4年ぶりにバザーを行った。 〇挨拶運動に加え，校区で家庭学習週間を3回設定した。 〇校区の課題について協議する、中学校区校学校運営協議会を11月に開催した。 〇学校公開デーは体育館改築工事のため、実施内容を工夫し参観者を制限したものもあるが，ラジオ体操は2回実施し，のべ600人以上の参加を得た。 〇地域コーディネーターの働きかけにより、学校支援ボランティアを活用し，授業支援を受けている。 〇保護者のボランティアさんはたくさん協力していただいた。 ▲四則計算チェックボランティアを活用していきたい。	・地域連携ではコロナ禍でできなかったことが4年ぶりに実施でき充実したものとなった。特にPTA役員の方々に感謝したい。学校美化やラジオ体操など、学校、保護者、地域が一体となった取組ができたことは大きな成果だと思う。 ・学校と地域の方々の交流はとても大事だと思う。たくさんの学校イベントに地域の方々が参加していただき、子どもの元気な姿を見ていただけるのは良いことだと思った。これからも学校、保護者、地域の方と連携していきたい。 ・あいさつ運動、家庭学習については年間を通じて行う方がよい。 ・中学校区学校運営協議会の活動連携が見えてこない。 ・学校支援ボランティアをうまく活用してほしい。地域コーディネーター通して、ボランティア活動を活性化してほしい。 ・自治会、民生委員、パトロール隊など、なるべく学校に足が向くように努めたい。学校行事への参加も考えたい。 ・まずは「この子はどこの子？」を解消すべきであろう。その切り口としてはやはり”あいさつ”。そこから会話が生まれ、それが親に伝わり、親同士の繋がりとなる。そうすれば、地域の行事への参加がしやすくなり、輪が広がる。	・神戸中学校区合同の学校運営協議会の継続開催と連携活動の具現化。 ・学校美化環境整備のPTAとの連携充実。 ・夏季休業中のラジオ体操とポスターコンクール、バザーの実施継続。 ・状況に応じた学習支援ボランティア活動の推進。 ・ボランティアへの連絡体制の構築と地域コーディネーターの活用。
集団づくり	〇道徳科を中心とした人権感覚を養う授業実践の推進 ・道徳，人権学習の授業公開を全学年で実施する。その際には，本校として大事にしている取組（参観の観点等）を学級通信で発信する。 ・学級の仲間として認め合えるための取組として，「すくすく話」を各学級で実施し，障がいのある児童への理解を深める。 ・多文化共生の授業実践を行い，外国につながる児童を視野に入れた仲間づくりを推進する。 （成果と課題） 〇フリー参観で人権の授業を全学年が実施した。保護者への啓発にもつながった。 〇フリー参観後には，アミーゴ保護者会を実施し，小学校と中学校の違いなど，中学校の先生から話しを聞くことができた。また，スリランカのお茶を飲みながら，保護者と学校がつながる機会をもつことができた。 〇人権集会を行い，振り返りを行うだけでなく，通信を通して家庭へも発信することができた。 〇「すくすく話」を行った後，感想や振り返りを書かせることで，もう一度児童に考えさせ，理解を深めることができた。また,おもちゃランドにすくすく児童を招待したり，ぬくたいフェスタに参加したりした。 〇4年生は音楽会に向けて，アメリカの「チキンダンス」を踊ったり，「世界が一つになるまで」を5か国語で歌ったり，世界の文化に親しみを持つことができた。 〇3年生は人権教育センターを訪問し，そこで学んできたことや考えたことを全校集会で発信することができた。 〇6年生は人権フォーラムに向けてクラスでの行動を振り返るなど人権学習を行い，それを全校に発信することができた。 ▲外国籍の保護者と日本人の保護者がつながれる機会がなかなかとれなかった。交流しやすい環境や機会をつくっていけるといい。 ▲編入児童が多かったが，文化の違いや，宗教の違いから対応について手探り状態であり，子ども達も関わり合えているか課題が残る。	・外国籍児童が多い本校においては多文化共生の授業は重要である。相互理解を深め、グローバルな感覚をもつ児童を育成してほしい。 ・外国籍の方と言葉がなかなか通じなく、コミュニケーションが取りづらい。学校で他国の文化など学べるのはすばらしいと思った。 ・コロナ前までは、公民館事業（昔遊びの伝承等）で児童との交流があった。昔の話を聞くとか、戦争の話を地域の高齢者に聞くとか、お年寄りと児童の接点がなくなった。生と死、命の大切さを教えるなど、人間の一生を通じての教育が必要であると思う。 ・集団づくりは、まずは朝の集団登校からだと思う。はぐれている子どもを無くしていきたい。家庭でしっかり送り出す保護者の問題ではあるが。 ・人権学習「すくすく」との交流は引き続きお願いしたい。 ・「ぬくフェス」への積極的な参加が必要。より、障がい者への理解度や対応が高まる。 ・アミーゴ保護者会での対話も異文化を知るうえで貴重な場である。 ・日々の子どもたちの言動の変化を見落とさないことが大事である。	・人権の授業実践や授業公開は継続していき，その内容を通信などで伝え，保護者にも啓発していく。 ・すくすくの児童や外国籍の児童をつなぐ活動も継続していく。いっしょに過ごすということだけではなく，一人ひとりの特性や生活習慣など，友だちのことを知る機会もつくっていきたい。 ・アミーゴ保護者会の実施の仕方を検討し，外国籍の保護者と日本人の保護者とがつながれる機会をつくっていきたい。 ・人権センター見学や公民館見学など地域の方々と児童がつながる活動も引き続き行っていきたい。